【連載】※月１連載

船釣りの作法

釣技 技食

其の十五 相模湾のコマセキハダ

キハダ釣りの核心。

「ソナーから反応が消えません。これはキハダがコマセに着いてますね」

操舵室で梶ヶ谷昇船長が言う。

これまで現れては消え、そのたび移動を繰り返していたキハダが、午前10時を過ぎると船に着くようになった。

船長はコマセを切らさぬよう手返しをうながそうとマイクに手を伸ばす。が、その前に、松本圭一さんはビーストマスターＭＤ６０００で素早く仕掛けを回収し再投入。以心伝心、絶妙のタイミングでコマセが放たれる。

アタリはない。だが、流し続ける船長の意思を察して、松本さんは再び手返しする。と、巻き上げるその瞬間に、ビーストマスターキハダ180の竿先が鋭く震えた。

即座にスプールを親指で押さえ竿を振り上げて合わせる。最初はサバか何かと思うような曖昧な動きだったのが、突如、圧倒的な力で走り始めた。

「これはさっきのよりデカい」

2時間前に釣り上げた10キロ級よりも重く、ファーストランも長い。100メートルほど走らせたところでキハダが止まると、巻き上げにかかる。

時折キハダが走ればドラグを滑らせ、キハダが止まれば今度はドラグを少し締め、巻き上げ速度もジワッと上げる。そして最後は、サメをかわすために一気に巻き上げる。

海面直下で旋回するキハダ。船上では緊張が頂点に達する

▶操舵室のソナーに映し出されるキハダの反応。コマセに着くと出続ける

○松本圭一　淡水・海水を問わない無類の釣り好き。中でも船釣りには幅広く精通し、小型から大型魚まで様ざまなターゲットを追いかける。